

<b>学校教育目標</b>	「若竹」のようにしなやかにのびやかに そして真っ直ぐに					
	[知] 自ら学び、自分の思いを成し遂げる子を育てます。					
	[徳] 互いのよさを認め合い、心豊かな感性をもつ子を育てます。					
	[体] 健やかな心と体を持ち、共に生きる子を育てます。					
	[公] 友だち・まち・自然とのふれあいを大切にし、積極的に行動する子を育てます。					
[開] 伝統や文化を大切にし、社会に進んでかかわっていく子を育てます。						

<b>学校概要</b>	創立 54 周年	学校長 高浜 正太郎	副校長 小西 隆一郎	2 学期制	一般学級: 20	個別支援学級: 7
	児童生徒数: 664 人		主な関係校: 万騎が原中学校 万騎が原小学校 二俣川小学校 南本宿小学校			

<b>教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</b>	<b>万騎が原中 ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
<p>&lt;自分づくりに関する力&gt; &lt;自分らしさを社会に生かそうとする力&gt;</p>	万騎が原中学校 万騎が原小学校 二俣川小学校 南本宿小学校	主体的に行動し、自ら学び、互いに高め合うことのできる子ども  ・上記、子ども像を実現し、新しい学習指導要領に則った「じっくり考え、高め合い、次につなげる確かな学び」を意識した、対話的な授業創りに取り組む。 ・小中で互いの授業を見合うことでそれぞれの特徴や良さを知り、正しい認識をもつ。 ・小中連携にも触れながら、新しい学習指導要領に則った小中一貫ブロック内でのカリキュラムマネジメントを推進する。

<b>中期取組目標</b>	○児童一人ひとりがのびやかに安心して学べるとともに、「できた」「わかった」楽しさを実感できる学校づくりを目指します ・「児童の思い」「伝えること」「聴くこと」を大切にした指導を進めていくことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努めます。 ・「認め合い」「褒め合い」「共感し合い」を大切にした親和的な学級経営を通して、児童の自尊感情を高めます。 ・日常的な体力づくりを推進していくとともに、保健・食育の学習を通して健康な生活に関する理解を深めます。 ・学校・地域コーディネーターと連携して、まちとつながった学習や地産地消(食育)を推進します。 ・協働的な職員集団を創ることを通して、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めます。 ・メンター研修や校内研修を通して教職員の人材育成を図るとともに、職場環境や業務改善を推進できる組織運営を行います。
---------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①「主体的・対話的な深い学び」を実現するために、重点研究として取り上げている算数科の指導法を中心として、授業づくりに協働的に取り組む。②各教科のカリキュラムを確認・再考しながら、教科主任が中心となって授業改善及び向上に向けた情報を発信していく。③メンター研修に全職員が協力し、共に授業力向上に努めていく。
徳 人権教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②「認め合い」「褒め合い」「共感し合い」を大切にした親和的な学級経営を通して、児童の自尊感情を高め、集団の一員として協力してよりよい生活を築こうとする態度を養う。
体 健康教育	①運動会、マラソン大会、児童委員会による体力づくり活動を中心とした体力向上に努める。②保健学習、特別活動を中心とした健康に関する教育活動を推進する。③地域地消の推進、ランチルームの活用を通して、食と安全に関する理解を深める。
公 開 地域連携 (SDGsの推進)	①2年生・個別級の「作って食べようプロジェクト」を中心とし、保護者や地域の方々と連携して食育を推進していく。②「総合的な学習の時間」の取り組みとして、高学年でSDGsを取り上げ、児童の知識や意識を向上させると共に、学習した成果を地域に発信し、協働的に取り組める内容を検討していく。
いじめへの対応	①子どもたちがお互いに話しやすい学級風土を作りながら、いじめは絶対にいけないことだという人権意識を育てていく。②職員のいじめに関するアンテナの感度を高められるように、研修や共通理解を行うことで、未然防止、早期発見・解決に努める。③職員一人で抱え込まず、専任を中心としてチームで動くようにする。
人材育成・組織運営(働き方)	①人材育成を充実させるために、校内研修の計画的な実施やメンターチームの効果的な組織運営を図る。②児童指導案件に協働的に取り組むことを通して教職員個々の児童指導力の向上に努める。③教職員個々人がタイムマネジメントをしっかりと行うことを通して、ワークライフバランスのとれた働き方を推進する。
地域学校協働活動	①地域の方々による登下校時の見守り活動について、学校運営協議会で協議をして、安全対策の更なる充実を図る。②地域コーディネーターを中心に、各自治体との連携をとり、地域の材を多く取り入れ、地域全体で学校教育を進めていく。
特別支援教育	①不登校、学校渋りの児童に対して保護者と連携をとりながら、チームで取り組んでいく。②ひまわり教室を必要に応じて利用していくことで、学習支援を行う。③SSWやSCなど外部機関とも連携して、子どもや保護者の問題解決に向けて取り組んでいく。
児童生徒指導	①月に1度の運営委員会と職員会議を通して情報交換を行うことで、児童指導について共通理解を深めていく。②「静かに並んで歩く」「あいさつをする」は意識的に声をかけ、支援していく。③インターネットによるトラブルを減らしていくように、スマホなどの使い方を学年に応じて指導していく。
情報教育	①算数科や理科におけるプログラミング的思考に関する指導を全職員が行うことができるように、研修会を実施する。②ロイロノートやクラスルームの活用に関しての研修会を行うと共に、教職員と児童が共に日々の学習の場面でも円滑に使用していくことができるように活用を進めていく。